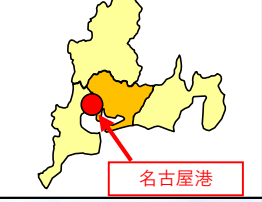


【位置図】



耐震強化岸壁の整備により、大規模災害直後の コンテナ輸送を支える

Before:

巨大地震による被害の恐れ

- 名古屋港が位置する中部地方は、南海トラフ巨大地震による大規模被害が想定されており、災害後の産業活動維持のため幹線物流輸送を担う耐震強化岸壁の確保が急務

After:

災害直後でもコンテナ物流機能を確保

- 5か年加速化対策等で、名古屋港飛島ふ頭地区に新たな耐震強化岸壁（R1岸壁（水深15m））を整備
- 本岸壁の整備により、災害後も大型コンテナ船の着岸が可能となり、中部地方の経済を牽引する自動車等の裾野の広い産業の物流機能が確保され、経済活動の維持に貢献

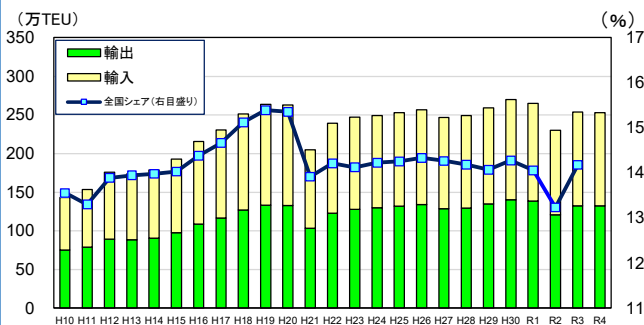
《愛知県の被害想定》

最大震度	震度7
経済被害額	約16.86兆円

出典：愛知県東海地震・東南海地震・南海地震等被害予測調査結果（H26.5、過去地震最大モデル）

《名古屋港の概要》

- ・総取扱貨物量、輸出額、貿易黒字額が全国第1位
- ・外貿コンテナ貨物取扱量は全国の約14%を占め、第3位



出典：名古屋港管理組合 「名古屋港統計年報（令和4年）」より作成

《位置図》